

■平成30年度離島漁業再生支援交付金事業の公表

天売・焼尻における離島漁業再生支援交付金事業の概要を公表します。

1 対象漁業集落の概要

市町村名：羽幌町

島名：天売島・焼尻島

協定対象漁業集落名：天売焼尻漁業集落

協定参加世帯数：70世帯、79人（うち漁業世帯70世帯、79人）

2 協定締結の経緯

羽幌町の天売島及び焼尻島は離島であり、生産や販売に不利な条件にあるため、漁業者は減少し高齢化も急速に進み、漁場の活用が充分に行われず、基幹産業である漁業の衰退が顕著な状況となっている。

このため、離島漁業再生支援交付金を活用し、漁場の生産力の向上や集落の創意工夫を活かした取組を促進させ、離島漁業の再生を図ることとした。

また、離島漁業の再生によって、離島の持つ良好な海域環境の保全や国境監視といった多面的機能の維持増進も期待される。

3 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

（種苗放流）

ウニ漁業は漁業者の高齢化によりウニ資源への依存度が高いことから、エゾバフンウニ人工種苗25万粒（焼尻地区18万粒、天売地区7万粒）の放流を実施し、資源の増大を図った。天売地区にてナマコ人工種苗1万粒を放流し、新たな資源の添加を図ることとした。天売地区にてニシン稚魚3万尾を放流し、新たな資源の添加を図ることとした。

天売地区にて飼料環境の悪い場所にある未利用のキタムラサキウニ2,520kgを採捕し、飼料環境の良好な漁場に移植放流することで、利用可能なウニ資源として、資源の増大を図った。

（漁場の管理・改善）

種苗放流の漁場において、ヒトデ類等の害敵生物が確認されたため、害敵生物を駆除し種苗放流効果の向上を図った。

天売地区において、健苗ウニの年齢調査を実施し、放流場所での生育状況など今後の検討資料とすべく基礎データを収集した。

（漁場監視）

観光シーズン（7月～9月）の密漁による資源の減耗を防止するため、監視員を配置し資源の維持を図ることとした。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

(流通体制改善)

出荷用のウニ籠を購入した他、ウニ蓄養エアレーションポンプの設置により一時蓄養施設の整備を行うなど流通体制の改善を図った。また出荷前の資源死滅防止を目的に、海水冷却器を導入した。

(販路拡大)

鮮魚運搬用保冷シートを導入し、出荷時の鮮度保持等に取り組み漁獲物の付加価値向上を図った。

4 取組の成果

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

(種苗放流)

エゾバフンウニ人工種苗の放流やキタムラサキウニの移植放流を実施したことにより、新たな資源の添加が期待される。また、ニシン稚魚3万尾、ナマコ人工種苗1万粒の放流により、今後の漁獲が期待される。

(漁場の管理・改善)

放流漁場のヒトデなど害敵を駆除するなど、適切な漁場管理に努めたことから、生産の向上を見込むことが出来た。

健苗ウニの年齢調査により、生育状況の把握と今後放流を予定する場所などの基礎的データの収集ができた。

(漁場監視)

漁場監視により、密漁が防止され、ウニ資源の維持を図ることができた。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

(流通体制改善)

ウニ籠や蓄養ポンプの設置により、流通体制が効率化され消費者への安定供給に寄与した。

また、海水冷却器の導入により蓄養水槽内の温度が一定に保たれ、活ナマコ、活ウニの出荷が容易となった。

(販路拡大)

鮮魚運搬用保冷シートの導入により、輸送時における鮮度低下が原因の魚価下落を防ぎ、出荷時の鮮度保持を図ることができた。